

---

# ひまつぶし3分ストーリー

ペペろん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ひまつぶし3分すとーりー

### 【Nコード】

N6362Z

### 【作者名】

ペペろん

### 【あらすじ】

こえ部で書いた朗読の転載です

## 我輩は猫になる

我輩は猫である、名前はまだ無い

ことさらに猫だというのは、もちろん理由がある

実は我輩、昨日までしがないサラリーマンであつた

なにやら薄暗いオフィスで、うずくまっているだけのつまらない男であつた

家にかえつても、上の空で家族と会話して、やはりそこでもうずくまり

つまらない何かをやり過ぐすだけで精一杯の、実につまらない男であつた

そして我輩は、猫であろうと決めた、犬や他の動物では無く猫であろうと決めた

切欠は、近所にすむ野良猫の黒であつた

いや、彼を猫の師と定めた我輩が、彼を呼び捨てにするのは気が引ける

ならばここでは黒殿と、敬してそう呼ぶべきであろう

我輩は黒殿のようになりたいと、常々そう思っていた

我輩の目に付くところでは、延々と日向ぼっこしているような黒殿ではあるが

よく見ると、彼はいつも、小さな傷を体のあちこちにこさえているきつと我が家の庭を含む、自分の縄張りを守るため

我輩の目に付かぬところで戦っているからなのだろう

昼の顔は世を忍ぶ仮の姿……

今日も今日とて黒殿は、夜になると動き出す

日中の緩慢な動きは、まるで嘘だったかのように  
我が家の塀をシュツと飛び越えて、どこかへ向かうのである  
それがどこなのか、我輩は知らない、誰も知ることは無い

きつと今頃黒殿は、闇夜に溶けて

我が物顔でぶいぶいと、町を歩いているのだろう  
彼と比べて、つまらない昼の顔しか持たぬ我輩は  
今はまだ、ただ彼に憧れるだけの、まだまだ未熟な半人前である  
だがかし……

我輩は猫である、名前はまだ無いけれど  
今日から猫であろうと、今日決めたのだから

誰がなんと言おうと、我輩は猫である。

おいでよ

よつこらしよ。

やあこんにちわ、今日もあえたね。

こないだ言ったこと考えてくれたかな？  
おっと、食事が先か、待ってて今缶詰め開けるから。

それにしても君はいつも傷だらけだね  
ちよつとは体を労わろうよ。

大体、常に一人で行動してる君がどうして怪我なんかするのさ？

私も、大概一人だけど、その点上手くやってるよ。

危ない場所には近寄らない。  
なるべく他人と関わらない。  
だから、怪我なんかしない。

……無口な奴だなあ、返事位しろよ。

このベランダに君が初めて顔を出したとき  
ここは二人の共有スペースにするって決まったけど  
礼儀はわきまえてくれないと困るな。

うん、ニヤアとはいいい返事だ。

それじゃ答えを聞かせてもらえるかな？

こっちの条件はこないだ言ったとおり

缶詰は週2回、お風呂は週一回

首輪はちゃんとつける事

それだけ守ってくれれば

共有スペースを、もう少しだけ広げてあげよう  
破格の条件だと思うよ？ 乗って損なし。

君は、首輪が嫌いなのかな？

でもほら、君と同じ黒だから似合わないって事は無いはず。

部屋の広さが気になるのかい？

大丈夫、私の部屋何にも無いから。

君の居場所くらい簡単に作ってあげるよ。

…… ねえ、君はさびしくなる時は無い？

一人で突っ張って生きてて、不意にさ

どうしようもなく不安になる事は無い？

私はあるんだ

不安で、なにもかも辛くて、耐えられなくなることが。

世界から拒絶されてる気がして

心が、くしゃくしゃになってしまふことが。

…… っておい、笑うなよ。

だから、どうかな？

ここのフローリングにペタッと肉球をつけてくれれば  
それで契約は成立、絶対に私は君を拒絶しないからさ。  
だから頼むよ

おいでよ、私の部屋に。

## 稀なる乗客

おや？ お目覚めですか。

どうやら……あなたは自分が今どこにいるのか解ってない様子だ  
ここは列車の中ですよ、あなた、随分気持ちよさそうに寝ていらし  
た。

何か良い夢でも見ていたんですか？ ほう、覚えていない？ それ  
は残念。

この列車がどこに向かっているのか気になりますかな？  
まあまあ、そんなに焦らなくても、列車はいずれ駅に着くものです。  
どうです、それまでの間、少し私と話でもしませんか？  
きっと良い暇つぶしになりますから、ええ。

あなた随分疲れた顔してますな、お仕事は何を？  
ほう、そりや苦労されてるんでしょうな。  
ご結婚はされていないんですか、なら私と一緒にだ。

私も定年まで仕事だけやって生きてきたような人間ですから。  
どうもあなたは私とよく似ているようだ。  
ほら顔も、どことなく。  
不思議なこともあるもんですな。

ああ、トンネルに入りました。  
ここから見ものなんです、さあ、窓の外を御覧なさい。

遠くにボンヤリ見えるのは、病院かなにかですか？

赤ん坊の泣く声が響いて、いやはや元気の良い。

しかし、よく見えませんな。

ああ、やっと見えてきた。あれは……ランドセル、それと男の子。どうやら、この男の子が主人公らしい。

はっはっは、あまり勉強は得意じゃないようだ

女の子にいい所を見せようとして失敗してますな。

どうも、注意力が散漫な子だ、自転車に乗ってるところがちがヒヤヒヤする。

中学、高校、大学。

だいぶ落ち着いて、子供の頃が嘘のように立派になってきましたよ  
相変わらず女性にはモテないようだけど……お？

ああ、素敵なお嬢さんと歩いてますね、初々しいですなあ

ふふふ、もう気がついていてでしょう？これは走馬灯なんですよ  
死ぬ前に見るって言うアレ、知ってるでしょう？

そんなにビックリしなさんな。

まあ落ち着いて。

そろそろ、今のあなたに列車が追いつきますから

自分が何をしたのか、思い出しましたか？

人生、うまくいかんもんですな。

しかし、いやまったく、馬鹿な事をしたもんだ。

おや？ どうして席を立つんです？

せっかちな所は治りませんなー



アツハツハ！　今までで一番驚いた顔だ！  
そうです、まだまだ先があるんです、さあ座って  
ここは特等席だ。

独身で、定年まで勤め上げて、めでたく退職。

まあ、そんなに花のある人生じゃ無かったけれど……満足です。  
これでも、私なりに精一杯やってきたのだから。

ん？　あなたの人生じゃないのかつて？

どうも勘違いしてますな、これは私の列車、私の人生だ  
そしてもうすぐ、やっと終点に着くところなんですよ

あなたの列車は、ずーっと後ろの方をまだノロノロと走ってますわ  
さあ、そろそろお戻りなさい。

慌てて違う列車に飛び込んだりしないよう、これから先はじっくり  
おやりなさい

それでは！　もう会うことも無いでしょうな  
私がそうしたように、きっと貴方も違うレールを選ぶだろうから。  
名残惜しいですが、さようなら、お元気で！

さようなら！　良い旅を！

## 星に願いを

お母さんが教えてくれた、魔法の言葉

お母さんが死ぬときに、苦しさを全部無くしてくれた不思議な言葉。

## ・星に願いを

一人は寂しいです、どうか、早くパパが帰ってきますように。

## 星に願いを

今日、クラスの子と喧嘩をしてしまった、仲直りがしたいです

## 星に願いを

喘息が辛いです。運動会、雨で中止になればいいのに。

## 星に願いを

もうすぐ5年生、加奈ちゃんと一緒のクラスになればいいな

## 星に願いを

期末テスト、あてずっぽの答えが当たってたらうれしい

## 星に願いを

最近パパが口うるさい、私の事なんかほっというて再婚してください

## 星に願いを

サッカー部の小森君、あした活躍できますように。あと痩せっぽちのこの体をどうか、なんとか！

## 星に願いを

もう恋なんてしません、目標は、国立大学に合格すること

星に願いを

なんとか内定がもらえますように。

星に願いを

社会人は大変です、嫌なことばかり、早く週末になりますように

星に願いを

この人、ちょっと冴えないけど、とっても優しい人なんです、結婚生活が上手くいきますように

星に願いを

子供ができました、健康には自信が無いけど、無事に産ませて下さい、お願いします

星に願いを

子供が言うことを聞きません、最近なんだか疲れてるみたい

星に願いを

入院して一ヶ月、不安で一人の時は泣いてばかり、あの子の前では、笑えますように

星に願いを

どうやら、私はダメみたいです、せめて、あの子が小学校に上がるまでは

星に願いを

もう、泣くのはやめました、私には秘策があるからです

星に願いを

だけど、私にできるだろうか？ …… 大丈夫！、絶対やってみせます

星に願いを

魔法の掛け方は全部貴女が教えてくれました、同じように笑えばいいんだ

星に願いを

この子が、何も望めなくならないように、願うほど大切なものを、この世界から見つけられますように

星に願いを

長い間ありがと、これで、最後です、お母さん。

あと少しで、この子が、手を合わせたら、しっかり目を見て、ほら。

…… 星に、願いを

なんだかドキドキ！

問1 貴方は今どんな気持ちですか

なんだかドキドキしています

問2 それはどうして？

通学途中に電車で寝過ごしたから……

問3 電車は今どのあたりを走っていますか？

全く、全く解らない。ここはどこだろう

問4 窓から何が見えますか？

たんぼと、たんぼと、果てしないたんぼ？

問5 現在時刻は？

3時間目がそろそろ始まる、もう諦めました……

問6 この電車、誰もついていませんね

朝はあんなに混んでるのにね

問7 この電車、どこに向かっていると思いますか？

知りませんよ、どこか、知らない場所？

問 8 何か気になることはありますか？

そりやありますけど、もう通り過ぎちゃいました

問 9 のどかですね

ええ、とっても

問 10 最後に、貴方は今どんな気持ちですか？

なんだか……ドキドキしています。

## カタオモイ

「なんだか肩が重い……」  
つていうのが、最近彼の口癖なのです。

あわわわ！、彼って言うてしまいました、実は私  
この人の彼女とか、全然そんなじゃないんです

だって、幽霊ですから

なんで笑うんですか？ むー、アナタ失礼な人ですね

呪いをかけてやる、エロイムエツサ！ エツサ！ホイサ！

あれ……？ 暫くやってないので忘れました。

勘弁してあげます

コホン、あのですね、幽霊だって恋はするのです

人に取り付いてる幽霊は、大体その人の事が好きなんです。

だから、辛そうな彼のために何かしてあげたいのです

どうすればいいのでしょうか？

ちなみに、最近彼はホラー映画に嵌ってしまって

もしかしたら私達、結構相性がいいのかもしれない

そうだったら、うれしいです！

でも私、幽霊のくせに怖いのが苦手なので

いつも彼の首にギュっとしがみ付いて見てるんですよ

えへへ

……でも、そうすると彼は言っのです

「なんだか肩が重い……」

本当に、どうすればいいのでしょうか？

困っています……



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6362z/>

---

ひまつぶし3分すとーりー

2011年12月21日10時57分発行